



チェルノブイリ・ヒバクシャ救援関西発足 27 周年の集い

# チェルノブイリとフクシマを結んで 交流と支援を拡げよう！ フクシマを核時代の終わりの始まりに！



日時：2018年12月9日(日)午後1時半～4時半

場所：大阪市立総合生涯学習センター／第1研修室  
大阪駅前第2ビル／5階

## 《プログラム》

「発足 27 周年を迎えて」基調報告：事務局  
「フクシマからチェルノブイリ被災地を訪れて」  
交流報告：佐藤龍彦さん（福島県楡葉町在住）  
振津かつみ（「救援関西」事務局）



バザー：ベラルーシの民芸品、手作りケーキなど！！



参加費：700(学生 500 円)

主催:チェルノブイリ・ヒバクシャ救援関西

問合せ:072-253-4644 0797-74-6091

E-mail:[cherno-kansai@titan.ocn.ne.jp](mailto:cherno-kansai@titan.ocn.ne.jp)

10月17～22日、事務局の振津が、松川さん（モスクワ在住・通訳）とともに、ベラルーシの汚染地クラスノポリエとチェリコフの学校・幼稚園・障がい者リハビリセンター・病院・子どもたちの社会保護施設など、また、ミンスク・マリノフカ地区の「移住者の会」を訪問し、「救援関西」として日本の皆さんからの支援を届け交流してきました。そして26日からの福島からの訪問者（角田さん・

県教組委員長、中村さん・石川町町議、佐藤さん・檜葉町民)の視察・交流の受け入れ準備と打ち合わせを行いました。10月26日～11月5日、福島の方々をモスクワ空港で迎え、ロシアのチェルノブイリ被災地ノボジプロフ、そしてベラルーシの被災地に向かいました。「救援関西」のコーディネートでフクシマ事故被害者の方々とともに取り組んだ、初めての被災地訪問・交流でした。

フクシマ事故後、「救援関西」は、25年以上にわたるチェルノブイリ支援・交流の経験を、フクシマ事故後の被災地の被ばく防護、健康と生活を守るための活動、放射線教育などに役立ててもらいたいとフクシマに通い続け、関西の「保養」支援にも協力してきました。また、チェルノブイリ・ヒバクシャの方々とともにフクシマを訪問し、二つの原発事故の被害者どうしの交流にも重ねてきました。そして「チェルノブイリとフクシマを結んで、チェルノブイリとフクシマを繰り返させない、事故被害者の人権と補償の確立を、フクシマを核時代の終わりの始まりに」と、シンポジウムや集会にも取り組んできました。今回のフクシマ事故被害者のチェルノブイリ訪問は、このような27年にわたる私たちのチェルノブイリの支援・交流と、フクシマ事故後の活動をベースに実現したものです。

訪問前に福島の方々からは、チェルノブイリ被災地での生活、事故後の施策、放射能に対する人々の認識、放射線教育、被害者団体の活動、障がい者への施策などを見聞きたい、そして、これまでフクシマを訪問してくれた人々全員に再会したい、等々…の希望があり、また受け入れて下さる現地の方々とコーディネート担当の私たちも、できるだけ多くを見聞きしてほしいとの思いがあり、結果的にかなりのハードスケジュールとなってしまいました(主に振津のせいですが、すみません、「訪問団」の皆さんお疲れさまでした)。でも、チェルノブイリ被災地で30年余りにわたって「生き抜いて来た」チェルノブイリ・ヒバクシャの方々の様々な体験や思いの一端に触れて頂けたのではないかと思います。今後のフクシマでの活動、さらにチェルノブイリとフクシマを結ぶ取り組みに繋がる事を願っています。

ロシアの被災地ノボジプロフでのNGO「ラディミチ」との交流では、事故当時まだ子どもだった人々、事故後に生まれた若い世代に着実に引き継がれている活動に元気ももらいました。また事故直後にチェルノブイリ4号炉のすぐ側で作業したリクビダートルの方々の貴重なお話もお聞きすることができました。ベラルーシの汚染地では、32年経っても続けられている放射能モニタリング、健康管理、放射線教育の様子などを具体的に見聞きする中で、まだ10年も経たないうちから事故被害は「なかった」ことのように施策を切り捨てる日本政府の姿勢との大きな違いを改めて認識しました。高汚染地ナローブリアでは、30年経っても立ち入り禁止の区域が広がる中、やっと試験的に養蜂や馬の飼育などに取り組み始めた様子も視察しました。

「移住者」の会の方々からは、生々しい被災体験、移住後の苦労と活動、等々をお聞きしました。またベラルーシが戦争で多くの犠牲を強いられた歴史にも触れました。(詳細は12月9日「発足27周年の集い」で報告します。)  
「集い」では、同じ事故被害者として訪問交流された佐藤龍彦さんをお迎えし、学んだことや想いを語っていただきます。(佐藤さんは、チェルノブイリ被災者の福島訪問を中心になって受け入れて下さってきた方です。)ぜひご参加下さい!  
(振津かつみ)



ナローブリアにあるジャンナさん(「移住者の会」代表)の生家の前で。今も住むことができない高汚染地。

## 盛り上がった反核フェスティバル

10月28日、昨年の恨みを晴らすような、(昨年は台風で中止でした) 爽やかな秋晴れのもと、緑豊かな東住吉区の長居公園で、恒例の「戦争はいやや！核なんかいらへん！フェスティバル」が始まりました。陽気に誘われた親子連れなど沢山の公園を訪れた人が、「何してるの？」と覗いてくれたり、なかなかの人出でした。



「チェルノブイリ・ヒバクシャ救援関西」代表で、反核フェスティバルの代表でもある96歳の山科和子さんは、車いすですが、背筋をピンとはって挨拶されました。「私は長崎の被爆者です。反核フェスティバルがこんなに(長く)続けられていることがうれしい。戦争はだめです。みなさん、本当に、ヒロシマ・ナガサキ、チェルノブイリを忘れてはいけません。」と、今の改憲や福島原発事故をなかったことにしようとする動きにくぎを刺されました。

今回初めての噺家の「笑福亭竹林」さんの漫談や、「アカリトバリ」さんの歌、おなじみの「月桃の花」歌舞団のエイサー、舞台のレベルも高くなっています。福島からの避難者の森松さんのアピールもありました。

われらが「ダンスコアポシブル」のバレエは、「ヒロシマの少女のオリヅル」。初めて出演の小学生も3人含んで総勢10人の大舞台でした。ヒロシマで被ばくした小さい禎子さんは、原爆で火傷を負わず生き延びたのに、白血病となり苦しみます。元気になりたいと、祈りのツルを折る。その思いが、日



本中、世界中に伝わり、遠いモンゴルで子どもたちの歌になりました。モンゴルの歌手、オユンナさんの歌う「オリヅル」は耳にのこる旋律です。しかし、チェルノブイリ。そしてフクシマ。平和の核なんてない！言葉で表すと理屈っぽくて難しいが、ヒロシマ・ナガサキ、チェルノブイリ、フクシマ。バレエで、「祈り」「核なんかいらない」を表現しました。会場の皆さんも、バレエと小谷さんの声掛けで、みんな折

り鶴をかざし、持って一緒に参加してくれました。

腹立つことが多い情勢ですが、チェルノブイリ支援のためのベラルーシ民芸品もまあまあ買っていたいただいたし(笑)、東住吉の市民の皆さんだけでなく、私たちも楽しんだ秋でした。

継続は力！！ (由美)



# 「反原子力デー」の日に関西電力に申し入れ

10月26日、「反原子力デー」に際して、若狭ネットの呼びかけで関西電力への申し入れを行いました。受け取ったのは広報担当ではなく庶務係。5分間を過ぎると早く終わるように促し、にべもない対応。いつものこととはいえ、誠意のかけらもなく、消費者の要望に耳を貸さず、あくまで原発を維持する関西電力。全く呆れるけど、その姿勢を改めさせ、脱原発に向かうまで頑張りましょう。

2018年10月26日

## 10.26 「反原子力デー」に際しての関西電力への申し入れ

関西電力株式会社社長 岩根 茂樹 様

「自分の体験、家族に起こったことを話すのは大変辛い事。核被害者には将来どのような被害が出るか分からないという不安もずっと抱えている。それを少しでも減らし、同じ思いをする人を減らしていくには体験を語って理解してもらい、原発や核兵器を無くすことが解決への近道」。今年8月に来日されたチェルノブイリ・ヒバクシャは広島・長崎・福島・大阪で、チェルノブイリ原発事故により「若い時代」を奪われた自らの辛い体験を語り、原爆被爆者に原発事故被害者である自らを重ね合わせ、核を無くしていこうと訴えられました。

チェルノブイリ原発重大事故から32年経っても放射能汚染の傷痕は残り、事故被災地では今でも被ばくを少しでも低減し、住民の健康を守るための努力が続けられています。そして子供たち、その次の世代へとその努力を受け継いでいくための教育にも取り組まれています。広大な大地や自然はいったん放射能汚染されてしまえば、その影響は長期にわたらざるを得ません。

東京電力福島第一原発重大事故から7年余りが経ちました。政府は、昨年20mSv/年基準で帰還困難区域を除いて避難指示を解除し、あたかもフクシマ事故の被害がなかったかのように宣伝しています。しかし、いまだに事故が収束せず、放射能汚染が残り、生活に必要なインフラも整わない中では人々はなかなか帰ることはできません。住宅支援や賠償など被害者への支援策が打ち切られていく中で、人々は帰還か移住か等重く苦しい選択を迫られています。人格権など基本的人権が著しく侵害されています。また、廃炉に向けて毎日5千人もの労働者が大量の被ばくをしながら作業に従事していますが、未だにその道筋すら見えず、大量の放射性物質を含んだトリチウム汚染水は溜まり続けています。

チェルノブイリ事故とフクシマ事故は、その甚大な犠牲の上にもう二度と原発事故を繰り返してはならないと教えてくれているのではなかったでしょうか。さらに原発を運転すれば使用済み核燃料が溜まり続け、将来への重大なつげとなります。核のゴミを処分できる場所などどこにもなく、これ以上核のゴミを生み出してはなりません。コントロールのできない核を使用し、経済的にも成り立たない原発にいつまでも執着する理由はありません。国民の過半数は再稼働に反対しています。貴社の全ての原発を動かさず廃炉にし、再生可能エネルギーへ抜本的に転換することを今すぐに決断してください。

以下申し入れます。

- ・高浜 3・4 号機と大飯 3・4 号機の運転を中止してください。
- ・運転 40 年を超えた高浜 1・2 号機と美浜 3 号機を即刻廃炉にしてください。
- ・使用済み核燃料中間貯蔵施設の立地計画を断念し、これ以上使用済み核燃料を生み出さないでください。
- ・高浜 3・4 号機でのプルサーマルを中止し、大飯 3・4 号機でのプルサーマル申請を断念してください。
- ・チェルノブイリ・フクシマを教訓として、貴社のすべての原発を動かさず廃炉にしてください。再生可能エネルギーに抜本的に転換し、その普及・拡大に協力してください。

チェルノブリ・ヒバクシャ救援関西

## 《11 月 3 日 おおさか総がかり集会》

「輝け憲法！ともに生きる社会を！11.3 おおさか総がかり集会」に 12000 人が集まりました。

この秋、またまた安倍政権の憲法改悪の掛け声。ケシカラン！

私たちは、フクシマの現実を捻じ曲げて、フクシマ原発事故を被害をなかったことにする、復興庁の「放射線のホント」撤回の署名と、12 月 9 日の集会の宣伝をしつつ、集会に参加しました。野党からの挨拶と、「制服向上委員会」「朝鮮舞踊」「月桃の花歌舞団」の歌と踊り。沖縄から体を張った闘いを続けている山城博治さんのお話がありました。

「安倍政権の蛮行をとめるために、野党が『枝分かれせず』闘う必要がある。3・11 の時の枝野さんの「直ちに影響はありません」の声が耳にのこる。あの時の言葉をきっちり謝ってこれからの闘いをアピールした方が支持は上がると思います」制服向上委員会は、野党を前にして、なかなか言いたいことを言ってくれた（笑）り、他にも色々なアピールがありました。



福島現地は本当に大変です。汚染水の海洋投棄、モニタリングポストの撤去、そして、この復興庁の事故の被害がなかったような「放射線のホント」の宣伝。粘り強い闘いが続いています。沖縄の闘いに学び、負けてられない思いを新たにする集会でした。（由美）

♡♠♦♣♡♠♦♣♡♠♦♣♡♠♦♣♡♠♦♣♡♠♦♣♡♠♦♣♡♠♦♣♡♠♦♣♡♠♦♣♡♠♦♣お知らせ♡♠♦♣♡♠♦♣♡♠♦♣♡♠♦♣♡♠♦♣♡♠♦♣♡♠♦♣♡♠♦♣♡♠♦♣♡♠♦♣♡♠♦♣

\* チェルノブイリ・ヒバクシャ救援関西発足 27 周年の集い (P. 1 表記参照)

チェルノブイリとフクシマを結んで  
交流と支援を広げよう！  
フクシマを核時代の終わりの始まりに！

\* 政府交渉

日時：12月20日 12時30分 集合・打合せ  
13時～14時 復興庁、文科省  
14時30分～15時30分 原子力対策本部、原子力規制庁  
15時50分～16時20分 交渉まとめ、意見交換  
場所：参議院議員会館 B107  
問合せ：072-792-4628 建部

「放射線のホント」撤回全国署名に御協力を！ 1

「放射線のホント」撤回の全国署名に御協力ありがとうございます。9月1日に27団体の呼びかけで始まったこの署名は、福島をはじめ全国から1万7838筆(11月13日現在)集まり、さらに広まりつつありますが、まだまだ拡げなければなりません。同封のリーフレットをご活用の上、一層のご協力をいただければ嬉しい限りです。署名を拡げ「放射線のホント」を撤回させましょう。12月20日には政府交渉が行われます(上記)。交渉に参加し政府を追及しましょう。署名の第二次集約は2019年1月31日、第三次集約は、3月31日です。どうぞよろしくお願い致します。

カンパ・会費の納入ありがとうございました！！

(2018.10.2~2018.11.21)

坂岡隆司 田原良二 寺西清 山崎清 旦保立子 即得寺 松田高志 奥平純子 大野ひろ子  
井上保子 三田宜充 金子龍太郎 藤田達 染木富美代 中川慶子 斉藤玖仁子 嶋田千恵子  
田中道子 熊沢滋子 栗田千加子 御堂義之 田川克孝 安田美津子 ダンスコアポシブル  
北川恭子 田中農園 金山次代 (順不同・敬称略)

ニュース発行:チェルノブイリ・ヒバクシャ救援関西事務局  
連絡先:〒591-8021 堺市北区新金岡町 1-3-15-102 猪又方  
Tel : 072-253-4644  
e-mail: cherno-kansai@titan.ocn.ne.jp  
郵便振替:00910-2-32752  
□座名:チェルノブイリ・ヒバクシャ救援